

今年度第3回の学校運営協議会を令和7年12月17日（火）に開催し、6名の委員の方々にご出席いただきました。

今回は、今年度2学期後半の取組、3学期以降の予定及び予算執行状況についてご報告し、その後「地域の防災対策について」のテーマで熟議を行いました。

以下、学校側からの報告や熟議で話し合われた内容についてお知らせします。

2学期後半の取組について

研究発表会、みそ作り教室、PBL 発表会、歯みがき教室、親子除草、キッズフェス、いのちの授業、運動会等について報告

3学期以降の予定

始業式、定時退勤推奨ウィーク、入学説明会、授業参観・懇談会、通学班編成、6年生を送る会、卒業式、修了式等計画していることを説明

学校予算執行状況

学校配分予算全体の執行状況、修繕料執行内容の説明と購入備品（PTA からの寄贈や県教職員互助会教材支援事業による取得備品を含む）の報告



熟議「地域の防災対策について」

来年度、本校を会場として幸手市の防災訓練が予定されています。そのような中ではありますが、本校が避難所であること等の情報共有が徹底されていないという話を聞くことがあります。そこで、今回は地域の防災対策をテーマに、委員の皆様にも熟議をお願いしました。

熟議での協議内容

① さくら小学区の防災面の課題

- さくら小が避難所であることが周知徹底されているか
- 避難所までの経路の確認や冠水のおそれのある場所をハザードマップで確認しておく
- 地域住民の状況（高齢者がいる等）を把握できているか、地域への気遣いができているか。
- 避難所となる体育館に、夏場はエアコンが必要。
⇒体育館へのエアコンの設置については要望している。
- 水害に弱い地域なので、避難所である学校までたどり着けるのかどうか
- 児童は平日は学校にいいが、土日はどうするか。

② 課題について、地域・学校がそれぞれできる対策

- 防災には地域とのつながりが大事なので、学校だよりを子供たちに配ってもらうことより、地域を知るようにする。
- 町内でいろいろな対策をしているところがあるので、吸収しながら地域を知っていく。
- 「自分の身は自分で守る」ことは、スタートであり、ゴールでもある。
- 避難所の鍵が開かなかったことがあったが、誰が鍵を開けるのか。
⇒避難所を開けるのは、近くに住んでいる市役所職員が指定されていて、学校にも知らされている。地域住民にも市役所に問い合わせれば知らせてもらえるのではないかな。
- 4年生の社会で「水害から暮らしを守る埼玉県」という単元がある。ハザードマップを使って、この地域の特徴と行政がどのような対策をしているのか、例えばポンプの設置など、そういったことを学習している。Web 版を使うと、自分の家をピンポイントで調べることができる。子供の学習をとおして、保護者の啓発にもつながる。
- ハザードマップの web 版が最新の情報である。ハザードマップに QR コードが掲載されており、そこからも情報が得られる。
- 児童の下校時に大雨で出水のおそれがあるような際は、地域からの情報が大変有効である。

